

に従ひて増祿し、寛永の初七千九百五十石に至り、後又三千石を加へ、計一萬九百五十石の内二千四百三十石を興力知とし、その職は御小將番頭より進んで家老となり、金澤城代に補した。寛文四年退休して不入と稱し、本祿千石を養老俸とし、八年に歿した。

ヲバタナガハル 小幡長治 初諱長好。左兵衛・宮内と稱し、長次の嫡男であつた。父の歿後一萬九百五十石(内二千四百三十石興力知)を襲祿して前田綱紀に仕へ、火消役となり、元祿十年歿した。

ヲバタナガムネ 小幡長旨 通稱又助。實は中川長種の五男で、小幡長次に養はれたもの。兄長治の歿後配分知三百石を受け、寶永七年御馬廻に班し、享保十三年九月十三日七十三歳を以て歿した。長旨から四代清次郎に至り、天明四年九月十四日一門に御預となり、五年四月廿七日知行を召放された。

ヲバタノブマサ 小幡信政 通稱平三。養父七郎兵衛信義の後を受け、三百石を領し、會所奉行から享保十年預立院殿御付物頭並となり、百石を加へ、寛保三年御免、寛延二年四月七十五歳を以て歿した。

ヲバタヒトヤ 小幡因獄 小幡駿河の弟。前田利長に仕へて四百石を領し、大坂再役に二ノ丸で首一つを獲た。子孫世々藩に仕へる。

ヲバタミチヒサ 小幡通久 初諱長基・親久。大炊・左京・九兵衛と稱し、父清清の後を受けて祿二千石を領した。通久字は朝光、號は鑑湖、所居を碧雲樓といふ。人と爲り磊落、酒を愛して清貧常に洗ふ如くであつたが、詩を好み、雅會を催して富田景周・不破渡明等と交つた。寛延二年大横目となり、明和二年

罷め、寛政三年退老して止叟と號し、翌四年歿、年七十二。

ヲバタミツキヨ 小幡満清 通稱左兵衛・左京。初諱脩信。寶永三年父宮内立信亂氣により知行を没收せられたを以て、十一月十八日新知二千石を賜ひ、享保十二年二月二日三十二歳を以て歿した。

ヲバマジンジャ 小濱神社 河北郡大根布に鎮座する。式内等舊社記に『小濱神社。式内一座。小濱郷黒津船森鎮座。祭神大日貴命。今稱黒津船明神。一郷之惣社也。』とあるが、小濱郷の名の存在は訝しい。又一に黒津船權現ともいふた。もとは黒津舟地内に在つたが、寛政十一年五月廿六日の地震に社殿破壊し、享和三年十月三日復祝融の災に罹り、天保二年七月石川郡五郎島に遷り、明治廿二年八月二日今の大根布の地に轉じた。

ヲバマテイ 小濱邸 若狭遠敷郡小濱に加賀藩邸があつた。その創設に就いては明らかでないが、寛永四年の士帳に載せた御側衆の中に、若狭御米奉行百石木村七左衛門といふ者があるから、當時この米原のあつたことが知られ、又七左衛門の後その職を襲いだものがないので、久しからず廢せられたことが察せられる。後小濱侯酒井氏が外圍を修營するのみで、棄地の如き状態にあつたので、寛文元年二月加賀藩は之を酒井氏に贈與した。本邸の廣狭幾何であつたかも亦不明である。

ヲハラ 小原 能美郡白山下に屬する部落。文化八年の産物他國出制禁書に、小原村領に産する萌黃土を文化元年より指止めたことが記されて居る。

ヲハラ 小原 石川郡富樫庄に屬する部落。文化八年の産物他國出制禁書に、小原村領に産する萌黃土を文化元年より指止めたことが記されて居る。

ヲハラ 小原 河北郡湯涌郷に屬する部落。ヲハラ 小原 鳳至郡本木の内の小字。ヲハライシ 小原石 石川郡大平澤から産する石材。輝石安山岩で、帯紅色石基中に白色長石及び黑色輝石を散在し、緻密にして硬い。

ヲハライシ 小原石 石川郡石切小原から産する石材をいふ。元祿中の加越能産物書上帳には石切小原村からふせ石等を切出すとあり、寶曆十三年の書上には、石切小原村山から御用の石を切出したが、三十年以前から廢したとある。

ヲハラウチマス 小原氏益 大聖寺藩士。通稱直人、諱は氏益又は益、文英・魯庵・不羅又は慈山叟と號し、狩野畫を能くし、白山紀行の著もある。安政元年十二月歿、享年七十六。

ヲハラケンゾウ 小原憲藏 羽咋郡四町の。嘉永四年に生まれ、算學を越中射水郡の泊長右衛門定規に學んで高弟であつた。明治八年地租改正の際、邑知郷の丈量に従ひ、大正八年七月享年六十九で札幌に歿した。

ヲハラゴエ 小原越 河北郡に在つて、一に松根越といふ。同郡鳴瀬から堀切・曲子原・松根を經、越中の國界に至り、西齋波郡内山・五郎丸に通ずる。加越圖詳記天文廿一年朝倉宗滴出馬の段に、『河北郡小原・高坂の者ども向ふべし。』とあるから、小原といふ村がこの方面に在つた如くに思へるが、さうしたものは無いのである。

ヲハラコレアキラ 小原惟彰 通稱與左衛門・興九郎・惣左衛門。明和七年父太郎兵衛正方の遺知二百石を受け、大小將・御膳奉行から

定番頭に至り、文化五年百五十石を加へ、文政六年致仕して宗意と號し、天保八年七月八十四歳を以て歿した。
ヲハラソウザエモン 小原惣左衛門 僧日翁に従つて太平記理盡抄を學び、前田利常に仕へて百五十石を受け、世子光高に侍して之を傳へ、晩年名を宗惠と改めた。子孫長く藩に仕へる。
ヲハラソウザエモン 小原惣左衛門 正保以後寛文の初頃御書物奉行を勤め、慶安二年再び任せられ、貞享四年歿した。惣左衛門は初代惣左衛門の子で、亦補流の兵法を前田綱紀に傳へた。
ヲハラタウゲ 小原峠 能美郡牛首川の支流三ヶ谷川を遡り、三ヶ谷を經て、越前大野郡小原に至る國境の峠。高さ一三〇六米。
ヲハラハチロエモン 小原八郎右衛門 前田綱紀に仕へて二百石を受け、大小將組に列して御馬乗であつたが、正徳二年五月四日四十八歳で歿し、家斷絶した。
ヲハラヤマジヨウ 小原山城 ↓カムリガダケジヨウ 冠ヶ嶽城。
ヲハリチヨウ 尾張町 金澤の町名。十二冊御定書に載せる金澤通町筋町割附に、『三町二間五尺、尾張町』と見える。町名の由来は明らかでない。博伽雜談には、尾張荒子から引越した足輕・小者の住した所とし、加府事迹實録にも利家が荒子から召連れた下人の住所であつたとするが、三州名跡志には、利家入城の時分、荒子で用命を承つた町人を召寄せて居住せしめた所であるとす。

ヲハリミチシヨウ 小針道庄 承久二年の文書に加賀國小針道莊が見える。石川郡中興